

【nv-g4-001 脚注 2：宗教別の報道量における分析方法】

1. 分析対象：国際報道の記事の中で「宗教に関する記事」と分類された記事

2. 分析方法

対象記事の見出しにある特定の宗教に関する語があればその宗教に関する記事だと判断する。以下、例を示す。

(例 1)『ローマ法王「他人の信仰、侮辱してはならぬ」 表現の自由「限界ある」』(朝日新聞 2015 年 1 月 16 日)

→「ローマ法王」という単語はキリスト教(中でもカトリック派)に関するものなので、この記事はキリスト教に関する記事だと判断できる。

(例 2)『暫定政府樹立を宣言 イエメン、シーア派武装組織』(朝日新聞 2015 年 2 月 8 日)

→「シーア派」という単語はイスラム教の宗派を指すものなので、この記事はイスラム教に関する記事だと判断できる。

(例 3)『「仏像にヘッドホン」 広告に懲戒判決 ミャンマー、宗教侮辱罪』(朝日新聞 2015 年 3 月 18 日)

→「仏像」という単語は仏教に関するものなので、この記事は仏教に関する記事だと判断できる。

(例 4)『(地球 2 4 時) 民族・宗教、公表先送り ミャンマー国勢調査』(朝日新聞 2015 年 5 月 31 日)

→この記事の見出しには「宗教」という単語があるため、まず「宗教に関する記事」ということは判断できる。しかし特定の宗教名や特定の宗教に関連する語が無い(「宗教」一般を差しているだけにすぎない)ため、この場合は「その他」に分類する。

(例 5)『黒人集う教会で乱射 9 人死亡、白人の男逮捕 米南部』(朝日新聞 2015 年 6 月 19 日)

→見出しには「教会」という単語があるため、「宗教に関する記事」であることはわかる。しかし、どんな宗教の教会なのかは判断できないため、この記事は「その他」に分類される。